

7-3 1961年～1974年の日本付近の地震活動

Seismic Activity in and near Japan (1961 - 1974)

気象庁地震課
Seismological Division,
Japan Meteorological Agency

気象庁が最近14年間に震源決定した地震のうち、第1～2図は北海道、東北地方の地震回数分布図である。図は緯度、経度共5分毎にメッシュ内に発生した地震の数を示し、回数の0から9はそのまま、Aは10回、Bは11回……を表わしている。第1図は震源の深さが0～39km、第2図は40～60kmの場合の分布図である。これによると北海道の内陸では浅い地震が弟子屈付近に、また日高山脈南部には深さ40～60kmの地震がまとまって起こっている。北海道南方海域の地震活動の空白域は1973年の根室半島沖地震で一応埋まったように思われる。

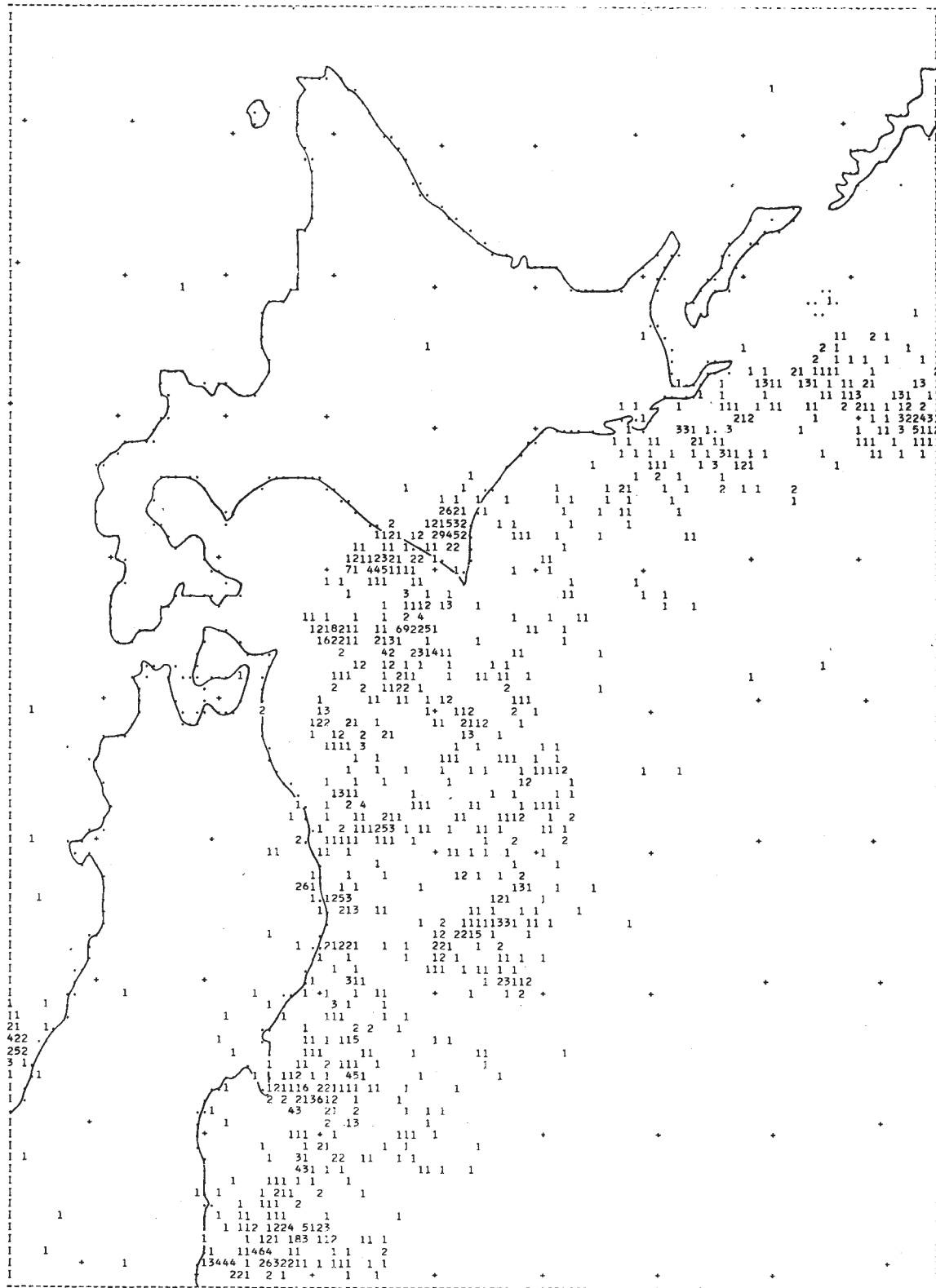
東北地方の内陸では、1962年の宮城県北部地震、1970年の秋田県南東部の地震のほか、駒ヶ岳、奥中山、岩木山の周辺にも小地震の活動がある。海域では1968年に十勝沖地震が発生しその余震域が顕著である。

第3～4図は、関東、中部およびその南方海域の地震回数分布図である。内陸の浅い地震のうち1961年の北美濃地震、1969年の岐阜県中部の地震など小被害を伴った地震がみられるほか、足尾、古峰ヶ原付近、松代周辺、信濃坂付近、山梨県東部、伊豆諸島北部などには群発性の地震がある。1945年の三河地震の余震は1961年以後もなお続いている。また、茨城県南西部と千葉県北部には深さ40～80kmの地震が多く起こっている。海域では遠州灘と房総南方沖に地震活動の空白域があるが、房総南東沖は1973年1月頃から地震が時々発生するようになった。

第5～6図は近畿は、中国、四国、九州、沖縄周辺の地震回数分布図である。これらの地域の内陸の浅い地震のうち、京都周辺、和歌山付近、広島県北東部、熊本県北部、有明海、千々石湾、えびの町などには群発性の地震活動があり、1946年の南海道地震の余震は1961年以後もなお協いている。日向灘から豊後水道にかけての海域には地震の発生が多い。

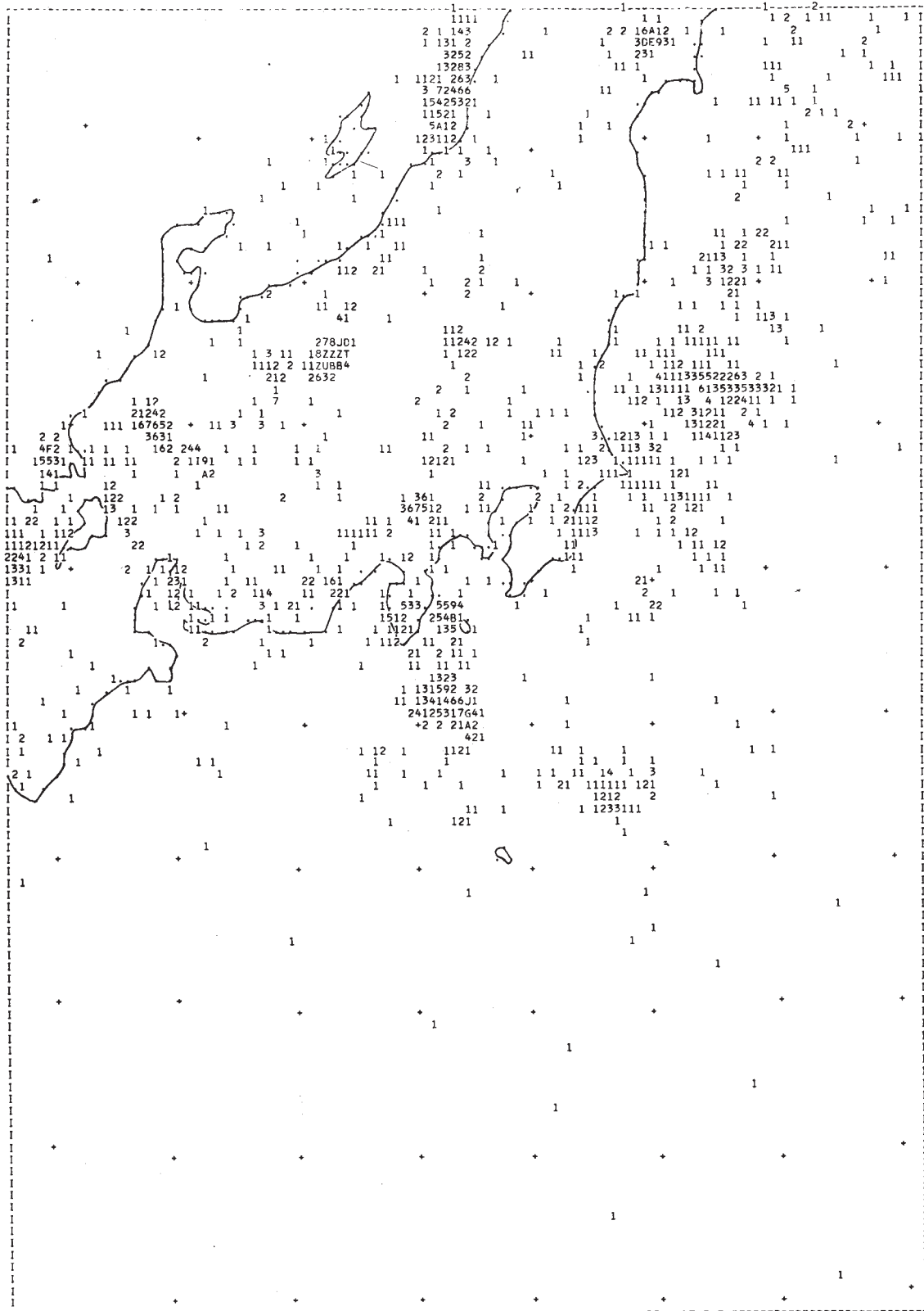
139. 0. --- 148. 0.
 37. 0. --- 46. 0.
 DEPTH 40 --- 60
 3154 5.0

61. 1. 1 --- 74. 10. 31



第2図 東北・北海道の地震分布 ($h = 40 \sim 60\text{km}$) (1961 - 1974)

Fig. 2 Continued ($h=40 \sim 60\text{km}$).

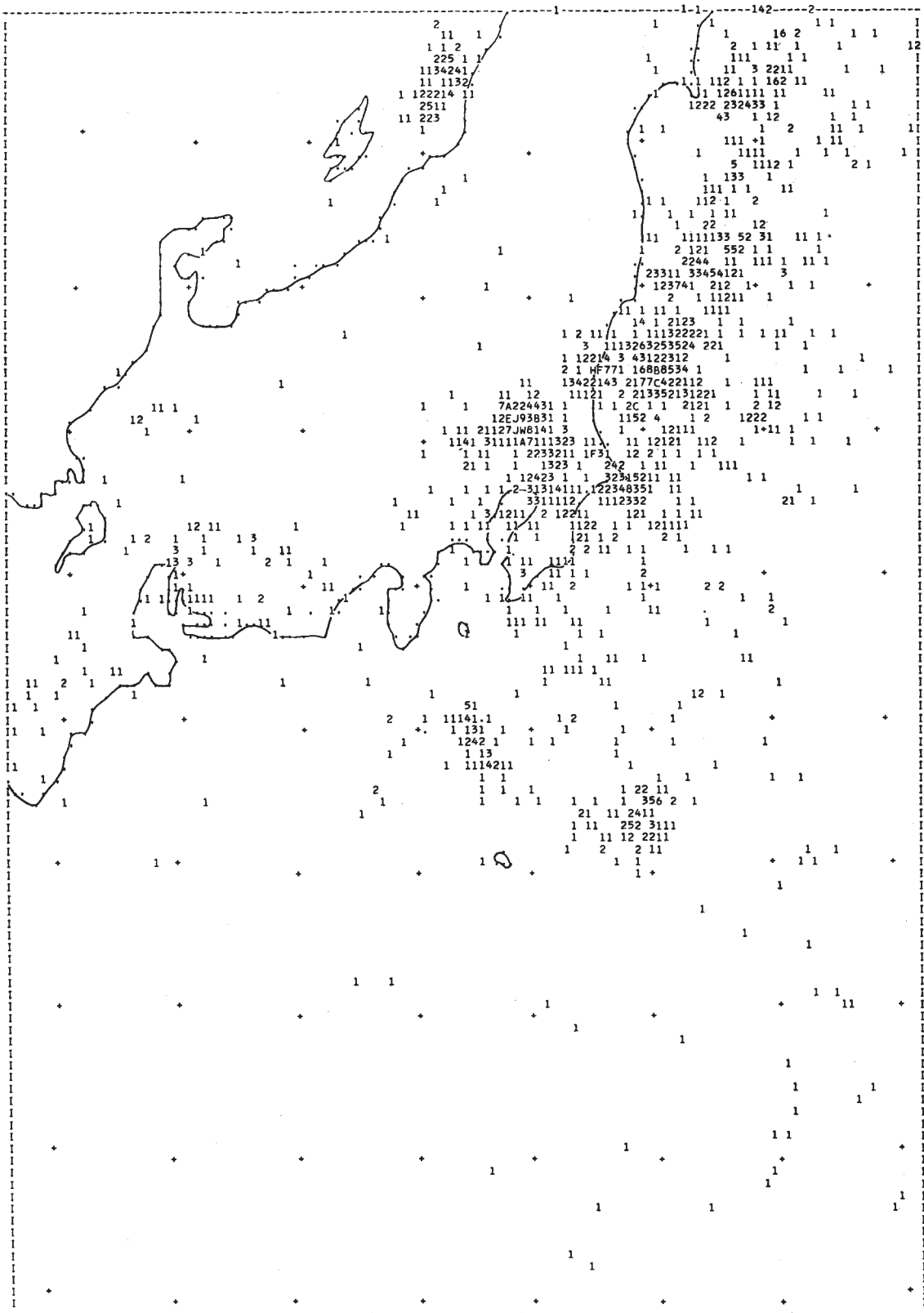


第3図 関東・中部・近畿地方の地震分布 (h = 0 - 39 km) (1961 - 1974)

Fig. 3 Distribution of earthquakes in Kanto, Chubu and Kinki Districts (h= 0 ~ 39km) (1961-1974).

135. 0. --- 144. 0.
 30. 0. --- 39. 0.
 DEPTH 40 --- 60
 3154 5.0

61. 1. 1 --- 74.10.31

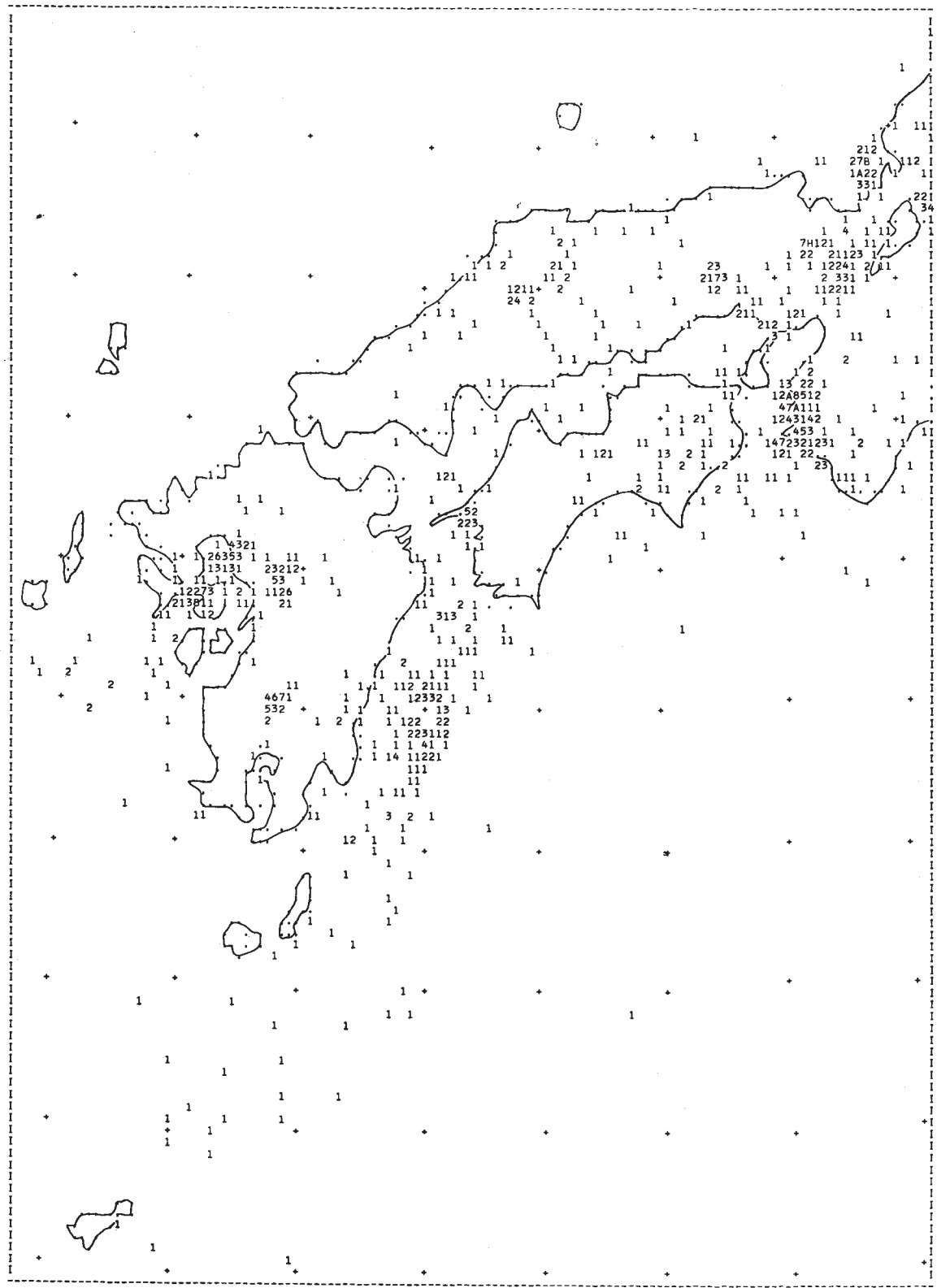


第4図 関東・中部・近畿地方の地震分布 (h = 40 ~ 60 km) (1961 - 1974)

Fig. 4 Continued (h=40 ~ 60km).

128. 0. --- 137. 0.
 28. 0. --- 37. 0.
 DEPTH 0 --- 30
 4235 5.0

61. 1. 1 --- 74.10.31

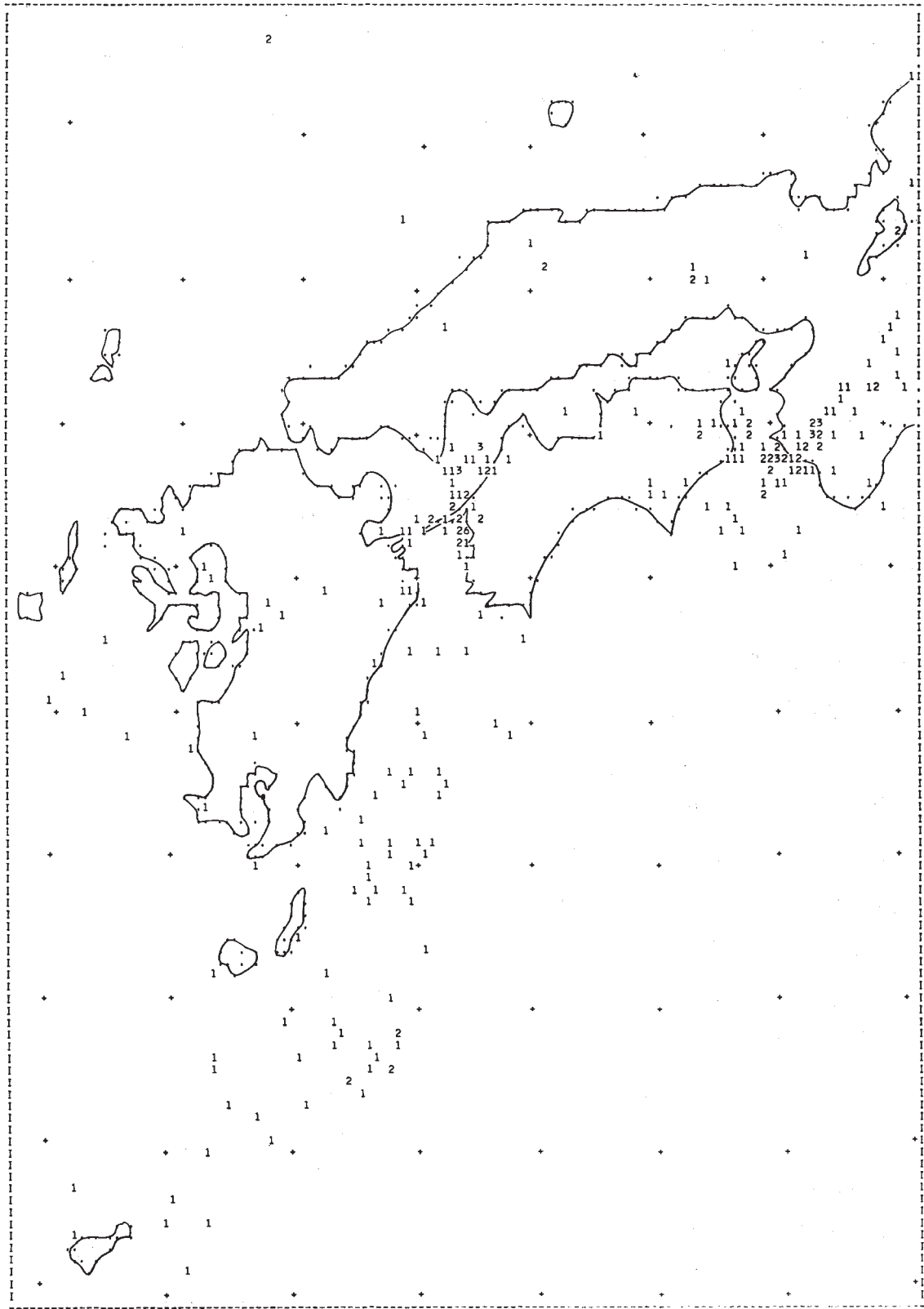


第 5 図 中国・四国・九州地方の地震分布 (h = 0 - 39 km) (1961 - 1974)

Fig. 5 Distribution of earthquakes in Chugoku, Shikoku and Kyusyu Districts (h= 0 ~ 39km) (1961-1974).

128. 0. --- 137. 0.
 28. 0. --- 37. 0.
 DEPTH 40 --- 60
 3154 5.0

61. 1. 1 --- 74.10.31



第 6 図 中国・四国・九州地方の地震分布 ($h = 40 \sim 60 \text{ km}$) (1961 - 1974)

Fig. 6 Continued ($h=40 \sim 60\text{km}$).